

## 経営のヒント84 呻吟語を読む

### 人心が乱れて国がもったためしがない！

世の中が衰えると、精神的に幼い人間とか身分の低い人間が奢り高ぶって勝手気ままにやりたい放題で上をないがしろにする。子弟は父母のことを無視し、嫁は舅、姑の存在を無視する。後進は先輩を無視し、民は公卿（官の長官）の指示命令をきかない。軍隊においては、一兵卒は司令官のことを聞かない。目は空々しく客気ばかりが盛んで、本来、守るべき道義を忘れて上を凌駕して平気である。ああ、道がこんなところまで至って乱れず、亡びなかった国はいまだかつてない。

今の男は衣服を華美にし、食べ物は贅沢を尽くし、軽薄な話や怪しげな話をして、歳月を浪費し、そして農工を卑賤なものと考えている。女は女で、おしろいをつけ、花をかざしにさして着飾り、容姿を飾り立てる方法を学び、懐手で遊びを楽しむばかりで、勤勉儉約の生き方を恥だとも考えているようだ。役人はお供を増やして金を貯め、礼法を繁多にして流行を追い、そして教え育てることを遠まわして役に立たないこととしている。それで、今日の時代に行なわれている道は心を痛めねばならないことである。（世運篇、現代語訳）

今から約500年前の中国の明代末に呂新吾が『呻吟語』とい著書に書いている。

**秩序がない組織は終わりだ」と述べている。**

なんと今の日本とそっくりである。

歴史が教えている。日本が崩壊する前兆を示している。

当たり前のことを当たり前にできない。

だから、システムのあちこちが緩んできて、政治がダメになっていくのである。

これは呂新吾の時代も今も変わらぬ事実である。

人間というのは成長しないものだ。

いわんや、組織はもっと成長しない。

責任の所在を明らかにしない。すべては時代が悪いと言い張る。

ここにも日本の行政だけでなく、企業・家庭の得意技である先送り政策が見られるが、そんなことが通じる余裕はない。

安堵している関係者全体を巻き込んで、これから沈没していくのである。

今、コンプライアンスの問題が叫ばれている。

が、しかし、企業の中、社会全体の関係者全体が安住、安堵している。

**自分には関係ない。誰かがどうにかしてくれる。**

不二家の事件にしても同じ。

**たががゆるんだ組織は崩壊する。**

**秩序がない組織は終わりである。**

### <経営のヒント>

歴史が教えてくれている。

崩壊する社会、組織は秩序が崩れている。

**「当たり前のことを、当たり前にする！」**

原点に戻る！ そのためにはどうすればいいのか？

歴史、哲学を改めて見直す必要があるのではないのでしょうか？